

生活者

生活と政治をつなぐ情報紙

通信

No.363
2021.12.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL https://www.seikatsusha.me
発行責任者 山内玲子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可

生活者ネットワーク3つのルール

1

議員は交代制(ローテーション)

生活者ネットワークの議員は、最長でも3期12年で交代します。議員を職業化・特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

2

議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3

選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金(カンパ)と知恵や努力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

都議会ネット

■都議会第4回定例会の開催:11月30日~12月15日。代表質問:12月7日(火)、一般質問:12月8日(水)。
■各党2022年度予算要望提出:12月23日。

地域ネット

江戸川ネット

ひとみとみつえと井戸端会議
12月16日(木)20:00~21:00(毎月第3木曜日)
Zoom 区議会議員の伊藤ひとみ・本西みつえとのお話し会 <https://semican.net/event/SC190372/spsgua.html> 03-5607-5975

練馬ネット

オンライントークカフェ
12月17日(金)14:00~15:00 Zoom 区議会議員のみきがま圭子・やない克子から練馬区議会第四回定例会報告、区政のあれこれ申し込みめきり:12月16日 申し込み yanai@nerima-net.gr.jp 03-3993-4899

武蔵野ネット

脱原発と平和を求める市民デモ第102回
12月19日(日)13:30 武蔵野プレイス前ふれあい公園集合(JR武蔵境駅南口) 主催:脱原発と平和を武蔵野市からすすめる市民の会 0422-36-3767

清瀬ネット

生活のお困りごと、ご相談ください
12月19日(日)14:00~16:00(毎月第3日曜日)
Zoom 生活者ネットワーク事務所(清瀬市元町1-7-21 201) 家計相談員が対応します 042-494-8720

練馬ネット

9条スタンディング(毎月9日)
1月9日(日)12:00~13:00 練馬駅南口(西武池袋線・大江戸線) 主催:生活者ネット9条の会 03-3993-4899

杉並ネット

使い終わった食用油の回収
使い終わった食用油を回収して精製すれば、エコな燃料になります。受付:平日の11:00~17:00 回収ステーション:杉並・生活者ネットワーク事務所(杉並区阿佐谷南1-15-6和久井ビル2階/南阿佐ヶ谷駅) 03-5377-5080

生活者ネットワークは東京都内34の自治体にあり、都議1人、市・区議40人の女性議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。
東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。



▲同性カップル等の婚姻に相当する関係を認めるパートナーシップ制度策定に向けて検討が進む日野市。当事者団体と市が協力して作成した啓発パンフレットを手に、日野・生活者ネットワーク市議会議員の白井なおこ

「人権」の観点から包括的に見直し、市内の人権施策の司令塔の役割を担うのが狙いであるという。検討を進めるにあたっては、支援者・当事者・有識者からなる検討委員会を設置し、当事者との意見交換会や庁内会議体からも意見聴取するしくみをつくっている。男女平等基本条例及び施行規則の改正

2018年からはLGBTQ当事者らが安心して過ごせる居場所「虹友カフェ」を月1回のペースで開催しているほか、市民向けの講座を開催し理解促進に努めている。また、日野・生活者ネットワークが求めてきた教職員研修も実施されている。研修を終えた職員には「LGBTQフレンドリーバッジ」が渡されている。このように土台づくりに時間をかけているのが日野市の特徴ともいえる。2020年、日野市議会に「パートナーシップ制度導入を求める請願」が出されたことも追い風となった。請願者は、自治体が制度を策定することを通じて「ありのままがいい」というメッセージを発信する意義について訴え、賛成多

数で採択された。私、白井なおこは紹介議員として活動するとともに、議会後は請願者自身によるLGBTQに関する学習会を開催した。

制度を活かしていくために大切なのは理解を深めること

制度が導入された自治体では、実際に活用されているのだろうか。申請件数には大きな隔たりがあり、ゼロというところも少なくないという。制度の内容、周知、社会的な理解と、三位一体で進めていく必要がある。日野市においては、必要とする人に十分に活用される制度となるよう期待しているところだ。

日野・生活者ネットワークでは30周年事業として「ジェンダーかるた」を制作した。多様な性に関する読み札は複数あるが、「夢じゃない、ジェンダーフリーの世の中へ」これを実現するには、国が動かねば法律は変わらない。地方自治体がそれを動かしていくことはできる。「パートナーシップ制度」はLGBTQという「特別なひと」のためにつくるものではない。そもそもパートナーとは、ひいては家族とは何か——私たち一人ひとりが、自分たちの問題として見つめ直す機会とすることで、多様な家族のあり方を認め応援しあう社会を築いていきたい。

日野・生活者ネットワーク市議会議員 白井なおこ

10月31日、第49回衆議院議員選挙が執行された。投票率は55.93%。前回の衆議院選挙より2ポイント程上回ったものの、戦後3番目に低い結果に終わった。

東京・生活者ネットワークは今回の総選挙をローカルから政治を変えるチャンスととらえ、2021衆院選取り組み方針に基づき、立憲民主党公認候補19人を推薦、応援態勢で臨んだ(政策協定は次の5項目①憲法にのっとり平和・国民主権・基本的人権を尊重する②地域主権を確立する③社会保障を充実させる④原発ゼロ、省エネ・再エネ政策を推進する⑤国会議員の女性比率5割をめざす)。

■東京・生活者ネットワーク推薦候補選挙結果(敬称略)
東京1区・海江田万里・前・当選(比例復活) / 2区・松尾明弘・前・落選 / 3区・松原仁・前・当選 / 5区・手塚仁雄・前・当選 / 6区・落合貴之・前・当選 / 7区・長妻昭・前・当選 / 8区・吉田晴美・新・当選 / 9区・山岸一生・新・当選 / 10区・鈴木庸介・新・当選(比例復活) / 11区・阿久津幸彦・前・落選 / 13区・北條智彦・新・落選 / 14区・木村剛司・元・落選 / 15区・井戸正枝・元・落選 / 16区・水野素子・新・落選 / 18区・菅直人・前・当選 / 19区・末松義規・前・当選 / 21区・大河原雅子・前・当選(比例復活) / 23区・伊藤俊輔・前・当選(比例復活) / 25区・島田幸成・新・落選

岸田自公政権NO! 命と暮らしを守るための政治への転換を! 生活者ネットワークは推薦候補を支えるべく、各地で、国民・市民のための政権、野党による政権誕生を、と大きく声をあげ、東京選挙区では一定の結果を見ることができた。とくに東京21区では、元東京・生活者ネットワーク都議会議員(3期10年)でもある大河原まさこ候補を応援。この3月突然の脳出血に見舞われ、中途障がい者となった大河原候補は、これまで力を入れてきた環境・福祉優先、子ども・ジェンダー平等政策推進に加え、高齢になっても障がいがあっても誰もがその人らしく、共に生きる社会を実現することこそが私の使命! と力強く訴え、自公候補に肉薄。東京比例での勝利を勝ちとった。

2021 衆院選

大河原まさこさん東京比例で当選!

立憲民主 東京ブロックで12人当選!

今いま

NOW

自分らしく生きられる社会に 日野市パートナーシップ制度策定に向けて検討開始!

先の衆院選挙でもLGBTQに関する政策は争点のひとつにはなつたものの、議論が深まったとは言い難い。国では今年、LGBTQ理解促進法案が見送られたが、今後どのように見直しを図られるのか注視が必要だ。一方、地方自治体においては、同性カップル等の婚姻に相当する関係を認めるパートナーシップ制度が導入され、2015年の渋谷区、世田谷区を皮切りに、今年10月11日現在で導入自治体は130に上り、この日野市でも同制度の策定に向けて検討が本格化している。しかし、条例や規則、要綱などその位置づけや内容は自治体ごとに異なるのが現状だ。

多様な性と新しい家族のあり方を認め合おう

日野市においては、まずは制度検討を進める組織として、約2年間の準備期間を経て、今年4月に「男女平等等課」を「平和と人権課」に改めた。男女という二元化では括りきれない多様な性を、その土台となる

「人権」の観点から包括的に見直し、市内の人権施策の司令塔の役割を担うのが狙いであるという。検討を進めるにあたっては、支援者・当事者・有識者からなる検討委員会を設置し、当事者との意見交換会や庁内会議体からも意見聴取するしくみをつくっている。男女平等基本条例及び施行規則の改正

2018年からはLGBTQ当事者らが安心して過ごせる居場所「虹友カフェ」を月1回のペースで開催しているほか、市民向けの講座を開催し理解促進に努めている。また、日野・生活者ネットワークが求めてきた教職員研修も実施されている。研修を終えた職員には「LGBTQフレンドリーバッジ」が渡されている。このように土台づくりに時間をかけているのが日野市の特徴ともいえる。2020年、日野市議会に「パートナーシップ制度導入を求める請願」が出されたことも追い風となった。請願者は、自治体が制度を策定することを通じて「ありのままがいい」というメッセージを発信する意義について訴え、賛成多

数で採択された。私、白井なおこは紹介議員として活動するとともに、議会後は請願者自身によるLGBTQに関する学習会を開催した。

制度を活かしていくために大切なのは理解を深めること

制度が導入された自治体では、実際に活用されているのだろうか。申請件数には大きな隔たりがあり、ゼロというところも少なくないという。制度の内容、周知、社会的な理解と、三位一体で進めていく必要がある。日野市においては、必要とする人に十分に活用される制度となるよう期待しているところだ。

日野・生活者ネットワークでは30周年事業として「ジェンダーかるた」を制作した。多様な性に関する読み札は複数あるが、「夢じゃない、ジェンダーフリーの世の中へ」これを実現するには、国が動かねば法律は変わらない。地方自治体がそれを動かしていくことはできる。「パートナーシップ制度」はLGBTQという「特別なひと」のためにつくるものではない。そもそもパートナーとは、ひいては家族とは何か——私たち一人ひとりが、自分たちの問題として見つめ直す機会とすることで、多様な家族のあり方を認め応援しあう社会を築いていきたい。

日野・生活者ネットワーク市議会議員 白井なおこ



大河原まさこ候補最終日の訴えに集まった生活者ネットの仲間たちと。2021年10月30日・立川駅南デッキ

しかしながら、小選挙区289、比例代表176、合計465の議席をめぐる選挙結果は、自民261、公明32、維新41、国民民主11で合わせて345議席、「野党共闘」勢力は、立憲民主96、共産10、社民1、れいわ3で合わせて110議席、無所属10議席である。自公候補への批判票は自民補完勢力である維新へと流れ、維新はまさかの約4倍増。言い換えれば、改選勢力が改選発議可能な3分の2=310議席を大きく上回る345議席を獲得したことにもなった。

岸田総理が掲げる「新しい資本主義」とは一体何か。これまでのアベ政治を総括しているかにみせてはいるが、内実は、隠ぺい・改ざんが常態化する一握りの強者のための政治。これまでの新自由主義、アベノミクスの矛盾と失敗を塗り替えた看板の掛け替えに過ぎないではないか。「グリーンリカバリー」政策に逆行する原発温存に代わって、改選論議の今後にも目が離せない岸田自公政権が本格スタートする。

私たちは、地方政治に責任を持つものとして、まずコロナ禍でダメージを受けた人々への再配分政策の今後にも焦点をあて、国政への提案を続けます。

東京・生活者ネットワーク

都議会REPORT



待ったなしの気候危機対策 持続可能な地球を次世代に

東京・生活者ネットワーク都議会議員
岩永やす代 [国分寺市・国立市]

COP26は1.5℃をめざす合意がされ閉幕しました。世界各地で「世界気候アクション1106」が行われ、若者を中心に気候危機への対応が呼びかけられました。多大なエネルギー・資源を消費する東京都こそが先頭に立ち、温暖化への取り組みを力強く牽引していかねばなりません。

2030年温室効果ガス50%削減はまず都庁から

小池知事は、第3回定例会で新築建築物への太陽光発電設置の義務付けを表明し、制度づくりに向けて議論を始めています。民間の建物への設置は重要ですが、まずは都として民間の大手となるよう公共施設に設置すべきです。

私の所属する公営企業委員会で、水道局と下水道局をあわせる都内全体の2%という大量の電力を消費しており、気候危機対策の取り組みが重要です。浄水場や水再生センターのような広い敷地・建物で、新たに太陽光発電を設置できる場所の確保や、温室効果ガス削減の観点からは、下水の汚泥の燃焼処理工程で発生するN₂O(二酸化二窒素)、CO₂(二



世界気候危機アクション1106の前日、都庁から都議会議員有志でフォトアクションに参加。11月5日

酸化炭素)の約300倍の温室効果であり、排出削減が急がれます。さらに、下水処理で発生するメタンガスを活用したバイオマス発電も含めて、多様な再生可能エネルギーを増やすべきです。

都が自らの事業で発生する温室効果ガスの削減や省エネ、再エネなどの取り組みを一層強化し、全庁一丸となって進めるよう求めていきます。

玉川上水の保全是生物多様性の観点で

玉川上水は、水と緑が織りなす景観軸であり、武蔵野の自然が残る貴重な場として多くの人に愛されています。現在東京都では生物多様性地域戦略を策定中ですが、SDGsの観点で持続可能な東京を展望するうえで、玉川上水の管理に生物多様性の視点は重要です。

しかし、地域住民や観察・保全活動を行っている団体などから最近樹木の伐採が多すぎるなどの声が寄せられており、直近10年間で約2万5千本の木が伐採されていることがわかりました。

玉川上水は水道局だけでなく建設局や環境局、教育庁などいくつもの局が関係しています。関係部署の横断的な情報交換を密にするのと同時に、地域住民との合意形成を得ながら丁寧に進め、生物多様に配慮して整備、管理する方針を持つことが求められています。

葛飾区議選 沼田たか子 28位当選!

11月7日投票、8日開票で行われた葛飾区議会議員選挙で、葛飾・生活者ネットワークの新人・沼田たか子は、2877票を獲得し、28位で当選しました。葛飾区議選は、10月31日に告示され、定数40のところ、60人が立候補する大激戦となりました。

●区政へのチャレンジを決意して以来、「訪問看護師として在宅介護・医療の現場を見てきた。当事者の声を区政に届け、実態にあった制度やしくみ

の提案で困りごとを解決していきたい。病気や障がいがあったとしても高齢になっても、誰もがその人らしく安心して暮らせるまちづくりをすすめていきたい」と、訴えてきました。葛飾区民2877人の思いを託していただき当選することができました。ここからが始まりです！決意を新たに頑張っています！



葛飾区議会議員選挙結果
2021年11月7日投票・8日開票 投票率:44.03%

候補者名	現・新	当・落	順位	定数	候補者数	得票数
沼田たか子	新	当	28位	40	60	2877

本のはなし

生きにくい「当事者」の社会的登場こそ

生活者ネットワークに頼まれば飛んでいく堀利和さん(視覚障害者初の元参議院議員)が昨年暮れ、若き世代の「橋」大学の若者を世に登場させるべく、学士論文に加筆修正して出したのが「重度障害者が国会の扉をひらく」(社会評論社)です。上保晃平の「障害は政治的なこと」社会モデルと当事者参加」に始まる6章と序章・終章からなるこの本は、個人的なものから社会的なものへ、そして政治的なものへと変じていく流れが一望できます。

上野千鶴子が「当事者主権」を出したのは2003年。障害者・女性・高齢者・子ども不登校者・患者など社会的な弱者として取り上げられたが生

活者ネットはそれに先立つ1977年、家事労働のシャドウワークのなかから「生き方を変えよう」に始まっている。東京には、施設から地域への三井編子の「闘い」がこの本の中で描かれている。その中から木村英子が登場した。れいわ新選組の山本太郎が参院選の「特定枠」制度を活用して船後靖彦と重度障害者の当事者を一人国会に送ったのは画期的なことだった。それを支える地域の社会運動、文化運動なども多岐である。

私たちの回答は明白である。支援型の上から目線に代わる「共に」の苦闘を明くる「共に」の苦闘。先にワークス・コレクティブ7団体でつくる「こもつと事業体」が開いた「誰も地域で働き暮らすフォーラム」の議論を政策化するに尽きる。池田敦子さんが起こされた、高次脳機能障害があっても人生をあきらめずに希望をもって働く場をつくるプロジェクト

ターゲットの報告と、対等な関係をめざして「共に働く」あしたや共働企画の実践事例から学び、日本型の社会的企業や社会的協同組合を東京の中に「つくり出す協働作業」に向かっている。

『重度障害者が国会の扉をひらく』木村英子・船後靖彦の議会参加をめくって上保晃平(著)、堀利和(監修)社会評論社 定価:1870円

編集後記/2021年、前半は小金井市議選、都議選、国分寺市議補欠選、後半は衆院選、葛飾区議選にむけての活動に取り組んだ。都議選は1勝2敗の痛恨の結果に。葛飾区議選では、8年越しの議席がなかった。長らく生活者ネットを熱めて応援してください、大江正章さんが昨年12月に亡くなり、この12月18日に偲ぶ会がオンラインで開かれる。来る2022年は、2月の日野と町田の市議選、6月の立川市議選をはじめ、いくつかの選挙が予定されている。一つ一つの議席を確保し、政策実現をめざします。(上坂)